

最悪の状況をシミュレーションした不審者侵入避難訓練

——危機回避能力の育成——

長崎市立滑石中学校 校長 福井 英俊
〒852-8062 長崎県長崎市大園町2番1号 Tel (095)856-1991

I 学校の規模及び地域環境

1 学校の規模

学級数 15 生徒数 481 教職員数 31

2 地域環境

本校は、長崎市の北部、公営の集合住宅が多く建ち並ぶ住宅地に位置している。平成17年度から開始された学校選択制により、10校の小学校区からの入学が可能となったが、校区拡大に伴い危険箇所が増えるとともに、不審者情報等も後を絶たない状況にある。危険から児童生徒を守るために、地域の協力のもと、多くの「子ども110番の家」が設置されており、教職員・保護者・地域住民による「100人パトロール」や「子どもを守るネットワーク」づくりが積極的に行われるなど、防犯に対する関心の高い地域である。

II 取組のポイント

ポイント1 警察署・市教育委員会と連携した不審者侵入避難訓練を、次の三つの方法で実施

- <訓練①> 避難時間の短縮を目的とした訓練
- <訓練②> 侵入箇所に教員がいる場合の訓練
- <訓練③> 侵入箇所に教員がいない場合の訓練

ポイント2 不審者侵入箇所（校舎2階教室・廊下等）を想定した訓練会場の設営（体育館内）

ポイント3 綿密な事前・事後アンケートの実施とその結果を生かした事後指導の充実

III 取組の概要

1 取組の趣旨

近年、不審者等により児童生徒の命が奪われる事件が多発するという現状がある。そのため学校には、

ソフト及びハードの両面による安全対策が強く求められている。しかし、現実問題として不審者の侵入を100%防止できるとは言い難い。また、教職員向けのマニュアル等はあるものの、万が一実際に起こった場合、頭で理解しているとおりに的確に行動できるとは限らない。

そこで、安全対策のより一層の充実を図るため、不審者侵入避難訓練をとおして、生徒の危機回避能力（自己の生命維持や安全確保を最優先とした判断力及び行動力）を身に付けさせたいと考えた。また、今回の訓練では、できるだけ実際に近い最悪の状況を設定し、生徒・教職員にとって実践で直接役に立つ訓練となるよう内容や方法を工夫することとした。

2 取組のねらい

- 生徒：的確な状況判断

自己の安全確保や生命維持を最優先として、的確な状況判断・対応ができるようにする。

- 教職員：生徒等の生命維持と安全確保

正確な状況把握と的確かつ迅速な「判断・指示・連絡・対応」ができるようにする。

[短期目標]

- (1) 学校生活における危機回避能力の向上
- (2) 不審者対応能力の向上

[長期目標]

- (1) 日常生活での自己判断能力の向上
- (2) 地域（教育関係機関等）と連携した安全教育の充実

[発展目標]

生命尊重に根ざした人権意識の高揚

3 取組の内容・方法等

- 訓練の内容

本訓練では体育館に校舎2階教室（侵入箇所）

を想定した会場を設営し、場面や危機の想定が違う三つの訓練を2時間行った。なお、校舎から体育館への避難を訓練①、体育館会場における二つの異なる状況からの危機回避を訓練②、③としている。

ア 危機の想定

- 想定① 凶器を持った不審者が、授業中の教室に後方入口から侵入。入口付近の生徒を負傷させ、教室内の他の生徒を襲おうとする。(訓練①・②)
- 想定② 凶器を持った不審者が、教員不在の教室に後方入口から侵入。入口付近の生徒を負傷させ、教室内の他の生徒を襲おうとする。(訓練③)

イ 訓練①の内容・展開

訓練①：職員の間	
生徒目標	○ 的確な状況判断と避難時間の短縮
職員目標	○ 生徒の避難時間の短縮及び安全誘導
1 事前アンケートを配付し実施する。 2 各学級担任が事前指導を行う。(※1)	
~~~~~ 不審者の侵入 ~~~~~	
<b>【想定】</b> 不審者侵入学級より緊急連絡を受けたと想定する。	
3 教頭：状況確認のために現場へ急行し、校長へ報告後、指示を受けるとともに、緊急放送を指示する。 4 教務：緊急校内放送で全校生徒へ報知する。(※2) 5 各担任：体育館に生徒を避難誘導する。 6 不審者対応教員：さすまた等を所持し、不審者侵入学級へ急行し対応する。 7 避難経路担当教員：生徒の迅速な避難を誘導するとともに、トイレや保健室等の残留生徒の有無を確認する。 8 体育館玄関担当(男性教師)：玄関に待機して生徒の誘導と避難状況等の把握を行う。 9 校長及び各担任：体育館内で生徒の人数確認と安全な環境づくりに努める。 10 施錠係：体育館の全出入口を施錠し、カーテンを閉め、体育館の玄関に待機する。(※3) 11 男性教員数名：不審者対応教員の応援へ急行する。 12 女性教員：生徒の状態を確認し、心のケアを行う。	

(※1) 事前指導の内容

- (1) 「緊急事態発生」の校内放送を聞く。
- (2) 避難経路は担任が指示するが、状況によ

ては自己判断によることもあり得る。

(3) 不審者に遭遇した場合の対応について

- ① 大声を上げて周囲に伝える。
- ② 不審者と反対方向に避難する。
- ③ 非常ベルが近くにある場合は作動させる。
- ④ 特定指令者等は、教職員への伝達に走る。
- ⑤ 学級委員等は、安全確保のための的確な状況判断及び指示に努める。(特に教員不在時)

(注) 特定指令者：避難口に最も近い生徒。不審者等が侵入した場合に、非常ベルを鳴らしたり、教員等に伝達したりする役目を担う。

(※2) 緊急放送について

非常ベルを止め、緊急放送器具にて放送する。

放送内容については、不審者の感情をできるだけ刺激しないようにするため、本校では次のように放送することとしている。

「授業中ですが、ただ今より臨時全校集会を行います。生徒の皆さんは、先生の指示に従い、急いで体育館に集合してください。」

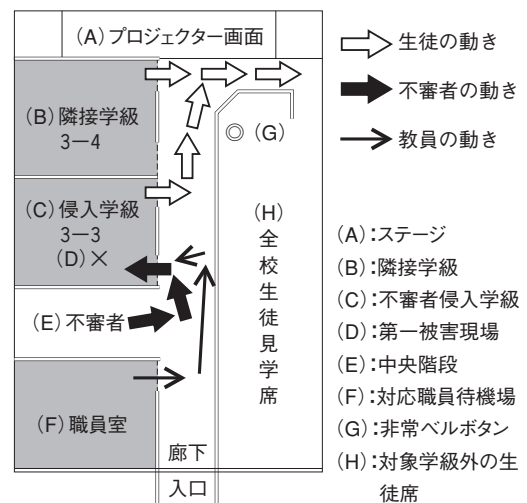
(注) この場合、授業中の突発的な校内放送による「臨時全校集会」が何を意味するものか、日頃から教職員間で共通理解しておく必要がある。

本校では「緊急事態発生」を意味し、各教室等の担当教員は、事態の状況等を相互の連絡・連携によりできるだけ把握し、生徒の安全な避難の誘導に努めることとしている。

(※3) 体育館の施錠について

全生徒が体育館に避難したことを確認できしだい、不審者を体育館に侵入させないように全ての出入口を施錠する。また、生徒に不審者を見せないよう、カーテンも閉める。(施錠等に対する生徒の反応は、アンケート結果を参照)

ウ 訓練②・③の会場見取り図(体育館)



エ 訓練②、③の内容・展開

訓練②、③：教員の動向		訓練②：生徒の動向		訓練③：生徒の動向	
職員	的確な状況判断ができるよう、危機管理能力の向上を図る。	生徒	教員がいる時の避難方法を理解し、判断力・行動力を養う。	生徒	教員不在時の避難方法を理解し、判断力・行動力を養う。
1	訓練の目的を説明する。	1	訓練の目的を聞き理解する。	1	訓練の目的を聞き理解する。
2	思考：プロジェクターを使用し、生徒に質問を投げかける。回答の考え方を解説する。(4 + 1項目)	2	思考①：担当からの質問を考え、解説を聞く。(4項目)(※6)	2	思考②：担当からの質問を考え、解説を聞く。(1項目)(※6)
不審者の侵入					
3	不審者係：教室後方入口から侵入し、背後から最寄りの生徒を負傷させる。	3	教室後方入口に最も近い生徒が、不審者の手によって負傷する。(事前に確認済)	3	教室後方入口に最も近い生徒が、不審者の手によって負傷する。(事前に確認済)
4	担任：侵入と同時に生徒と不審者の間に入る。応援が来るまでの生徒の安全と時間を確保する。	4	学級生徒は、不審者と反対方向へ避難する。	4	生徒は、自主避難を開始する。 [期待する生徒の動き]
5	職員室内の教員：非常ベル及び特定指令者の伝達により緊急事態の発生を知る。	5	特定指令者の生徒は、非常ベルを作動させ職員室へ伝達に走る。 [伝達内容]	①	避難する場合は、不審者と反対方向に逃げる。
6	教頭：状況把握のため現場へ急行し、校長に報告後、教員への指示及び関係機関への連絡を行う。	②	① 侵入学級	②	特定指令者等の生徒は、非常ベルを作動させ、職員室へ伝達に走る。
7	教務：教頭より指示を受け、緊急校内放送にて報知する。	③	② 不審者の人数・凶器等	③	学級委員等は、冷静かつ的確な指示を出す。
8	不審者対応教員：さすまた等を所持し、現場へ急行する。	④	③ 被害状況等(人的被害等)	④	逃げられない場合は、仲間と協力して自己防衛を行う。等
9	救護教員：担架を所持し、現場へ急行する。(※4)	6	隣接学級生徒は、担任の指示のもと避難を開始する。	5	隣接学級生徒は、不審者侵入学級の状況を察知し、自主避難を開始する。
10	担任及び不審者対応教員：使用できる物(机等)を全て駆使し、警察等が来るまでの時間を確保する。(不審者が生徒に向かおうとするため格闘する。)(※5)	7	避難後は、人数確認と報告を行う。	6	避難後は、人数確認と報告を行う。
11	不審者対応教員：不審者の凶器を振り落とし、一斉に取り押さえる。				
12	訓練内容を生徒と共に振り返る。 ① 生徒の意見・感想を聞く。 ② 場面や状況を再確認する。 ③ 事前指導内容の確認と反省をさせる。	8	不審者侵入状況を振り返る。 ① 意見・感想を発表する。 ② 場面や状況を振り返らせる。 ③ 事前指導の内容を再確認し、自らの行動を振り返る。	7	不審者侵入状況を振り返る。 ① 意見・感想を発表する。 ② 場面や状況を振り返らせる。 ③ 事前指導の内容を再確認し、自らの行動を振り返る。
13	各担任は、教室で事後アンケートに記入させる。(訓練③終了後)	〈侵入学級生徒の入れ替え〉		8	事後アンケートに記入する。

(※4) 救護(担架)系の留意事項

負傷生徒の救出が第一の目標であるが、負傷生徒本人及び周りの生徒を安心させるため、次のような声掛けを行うこととした。

- 声掛け例：「大丈夫だよ。心配ないよ。意識もはっきりしているね。よかった、安心した。」等

(※5) 担任及び不審者対応教員の留意事項

不審者に対する教職員の対処の目的は、不審者等の身柄確保ではなく、生徒から不審者の注意をそらし、生徒の安全を確保することにある。そのためには、警察官が来るまでの時間かせぎと、距離を取りながらも不審者の移動を阻止することが必要となる。訓練としては、凶器を持つ不審者に対し、さすまただけでなく、机やイス等も使い、教員が全力で向かっている姿を生徒に見せることが大切である。

(※6) 質問事項

事前指導で学習した不審者侵入時の対応方法を再確認させるために、次の5項目について、プロジェクターを使用したプレゼンテーションを行った。

- 項目1 不審者侵入で最も優先すべきことは？
- 項目2 教室から避難すべきか、教室に待機すべきかの判断は？

項目3 もしもケガをしたら？

- 項目4 避難の仕方は火災や地震の時と同じか？
- 項目5 教師が不在で生徒だけの場合、どんな対応をしたらよいか？

(注) 訓練②では項目1～4、訓練③では項目5を扱った。

オ 訓練後の職員研修

本訓練の成果と課題を踏まえ、今後の安全対策の充実を図るため、次のような内容で職員研修を行った。

- アンケート結果による行動変容の確認
- 生徒からの質問に対する回答内容の検討
- 今後の指導内容及び発展学習としての道徳の授業内容の検討



[訓練②・③] 訓練会場の状況

カ 生徒の行動変容(事前・事後アンケートの比較・考察)

- (備考) ① 各項目ごとに、全体・学年別・性別で割合(%)を表示している。
- ② 質問1と質問10は、事後アンケートのみで実施している。

1	事後	避難中に先生の動きを見てどのように感じましたか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
①		いつもの訓練とは全く違うと感じた	95%	95%	96%	96%	96%	94%
②		いつもの訓練との変化を感じなかった	2%	2%	3%	2%	2%	3%
③		いつもの訓練との違いがあまりわからなかった	3%	3%	1%	2%	2%	3%

【考察】 普段行っている火災時避難訓練との違いを、生徒に十分感じさせることができたかの確認をするための質問である。ほとんどの生徒が、教員の行動や雰囲気から状況の緊急性及び危険性を感じ取り、今回の訓練の特殊性及び重要性を理解できたものと考えられる。

2	事前	体育館に避難して鍵を閉めますが、どのように思いますか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
①		鍵を閉めることで、助かったという安心ができるだろう	51%	55%	48%	53%	49%	54%
②		鍵を閉めると追い込まれたような気になり不安になりそう	37%	38%	35%	39%	37%	37%
③		鍵を閉める・閉めないの違いがあまりわからないと思う	11%	7%	18%	8%	14%	9%

2	事後	体育館に避難して鍵を閉めましたが、どのように感じましたか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
①		鍵を閉めることで、助かったという安心ができた	50%	65%	42%	44%	50%	51%
②		鍵を閉めると追い込まれたような気になり不安になった	17%	19%	13%	19%	18%	15%
③		鍵を閉める・閉めないの違いがあまりわからなかった	33%	15%	46%	37%	32%	34%

【考察】 鍵を閉めることについての生徒の心境をみる質問である。今回の訓練において鍵を閉める目的は、①不審者の侵入を防ぐ。②生徒の安全を確保する。③カーテンを閉めることで、外の状況を生徒に見せない等である。「安心感があった」の割合は、事前と事後とではほとんど変動はなかったが、少なくとも半数の生徒は安心感を得ていたことから、鍵を閉めることの妥当性は検証することができた。



3	事前	不審者が教室に乱入したという状況を予想するとどう思いますか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
	①	不審者が乱入しても、自分は逃げられそうなので大丈夫だと思う	15%	18%	19%	8%	19%	12%
	②	不審者が乱入したら、逃げられないのではないかと思います	35%	39%	28%	40%	29%	42%
	③	不審者が乱入しても、現実でないとわからない	50%	43%	54%	52%	52%	26%
3	事後	実際に不審者が教室に乱入したという状況を見てどう思いましたか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
	①	不審者が乱入しても、自分は逃げられそうなので大丈夫だと思った	18%	21%	19%	14%	26%	9%
	②	不審者が乱入したら、逃げられないのではないと思った	57%	64%	48%	61%	40%	78%
	③	不審者が乱入しても、現実でないとわからない	24%	15%	33%	25%	34%	13%

【考察】 不審者が教室に乱入した状況を実際に見せることで、生徒たちの心境がどのように変化するかを把握するための質問である。事前アンケートでは、「現実でないとわからない」と答えた生徒が多かったのに対し事後は、「逃げられないのでは」という危機意識を持った生徒が増えている。今回の訓練によって生徒に余計な恐怖感を与えてしまったことは危惧されるものの、不審者の怖さをしっかりと意識させることができた。

4	事前	教員の不在時に、不審者が侵入した状況を予想するとどう思いますか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
	①	教員がいなくても、学級委員を中心に対応すれば大丈夫だろう	22%	25%	23%	18%	23%	21%
	②	教員がいないと絶対に対応できないし逃げられないだろう	26%	29%	21%	29%	24%	29%
	③	助かるかどうかは、現実でないとわからない	52%	46%	57%	52%	52%	50%
4	事後	先生が不在時に、不審者が侵入した状況を見てどう思いましたか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
	①	教員がいなくても、学級委員を中心に対応すれば大丈夫	20%	17%	20%	20%	23%	15%
	②	教員がいないと絶対に対応できないし逃げられない	37%	40%	40%	32%	33%	42%
	③	助かるかどうかは、現実でないとわからない	43%	43%	40%	48%	44%	43%

【考察】 授業中であれば教員が生徒への避難指示を出すことができる。教員がいる時といない時との状況の違いを、生徒がどのようにとらえたかをみるための質問である。事前に「教員がいないと絶対に対応できない、逃げるのができない」と答えた生徒の割合が、事後に10%程度増えていることから、自分たちで対応することの難しさが生徒に伝わったものと思われる。今後、教員不在の時の対応方法についてさらに検討し、指導する機会を設定する必要がある。

5	事前	不審者が侵入したら、自分の生命を自分で守れる自信がありますか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
	①	絶対に自分で守ることができるだろう	24%	22%	33%	18%	31%	17%
	②	絶対に自分だけでは守ることができないだろう	24%	26%	21%	26%	20%	29%
	③	守ることができるかできないか、その時でないとわからない	52%	52%	47%	57%	49%	53%
5	事後	不審者が侵入したら、自分の生命を自分で守れる自信がありますか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
	①	絶対に自己生命維持ができる	27%	32%	25%	24%	32%	21%
	②	絶対に自己生命維持ができない	14%	17%	13%	11%	13%	15%
	③	自己生命維持ができるかできないか、その時でないとわからない	59%	51%	63%	64%	56%	63%

【考察】 生徒が「自己の生命維持」の可能性をどのようにとらえたかをみる質問である。事前と比べて事後は「絶対に自己生命維持ができない」と答えた生徒が減少していることから、訓練を実際に見ることで、逃げ方や逃げるうえでの判断基準を理解し、自信を持った生徒が増えたと考えられる。一方、「その時でないとわからない」と答えた生徒が増えていることから、実際の対応の難しさも感じ取ったものと思われる。

6	事前	学級委員・特定指令者等になったとして、指示を出せると思いますか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
	①	指示を出せるだろう	26%	29%	30%	18%	32%	19%
	②	指示を出せないだろう	37%	40%	32%	38%	32%	42%
	③	現実でないと指示を出せるかわからない	37%	31%	37%	44%	36%	39%
6	事後	学級委員・特定指令者等になったとして、指示を出せると思いますか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
	①	指示を出せる	23%	25%	23%	20%	28%	20%
	②	指示を出せない	34%	31%	29%	42%	34%	39%
	③	現実でないと指示を出せるかわからない	44%	44%	48%	38%	38%	61%

【考察】 自己の生命を守ると同時に仲間のために指示を出す立場に立ったとき、適切な対応ができるかを問う質問である。訓練を通して、避難口に最も近い者が特定指令者となることや、学級委員の果たすべき役割を実際に見せ、説明したが、事後の方が「指示を出せるかわからない」と答えた生徒が増えている（特に女子）。このことから、これらの対応が生徒にとっていかに難しいものであるかがわかった。生徒だけの時の対応の在り方について、改めて課題を整理するとともに、いかに徹底するか検討する必要がある。

7	事前	不審者に対する危機感を持つことは必要だと思いますか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
①	絶対に必要だと思う		57%	59%	47%	64%	51%	61%
②	今の世の中ではあまり必要ないと思う		3%	2%	5%	2%	5%	2%
③	以前から必要だと思っている		40%	39%	47%	35%	44%	37%
7	事後	不審者に対する危機感を持つことは必要だと思いますか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
①	実際に乱入した状況を見て、絶対に必要だと思った		81%	85%	77%	81%	79%	84%
②	実際に乱入した状況を見たが、今の世の中ではあまり必要ない		1%	1%	2%	0%	1%	0%
③	以前から必要だと思っていた		18%	14%	21%	19%	20%	16%
<p><b>【考察】</b> 今回の訓練を経験させることで、不審者に対する危機感を持つことの必要性を生徒に自覚させることができたかをみる質問である。「絶対に必要だ」と思う生徒が大幅に増えたことや、事前でも少数ではあったが、「必要ない」と答えた生徒がさらに減少した（ほとんどいなくなった）ことから、今回の訓練の成果が読み取れる。</p>								

8	事前	不審者対策避難訓練は必要だと思いますか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
①	毎年必要だと思う		87%	92%	83%	84%	81%	90%
②	中学校3年間で1回実施する程度でよいと思う		9%	3%	12%	12%	11%	8%
③	必要ないと思う		4%	5%	5%	4%	8%	2%
8	事後	今回のような不審者対策避難訓練は、今後も必要だと思いましたか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
①	毎年必要ではないかと思う		91%	95%	86%	93%	90%	93%
②	中学校3年間で1回実施する程度でよいと思う		7%	4%	10%	7%	8%	6%
③	必要ないと思う		2%	1%	4%	0%	2%	1%
<p><b>【考察】</b> 今回のような訓練の必要性を問う質問である。事後では、「毎年必要だと思う」が9割を超え、生徒は訓練の意味や価値を十分に認識したものととらえられる。訓練内容・方法等について、今後も一層の工夫・改善を加え、さらに充実させていきたい。</p>								

9	事前	仲間が不審者から被害を受けたとしたら、あなたはどうしますか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
①	自分の命を守ることが最優先だが、仲間を助けに行きたい		43%	52%	42%	37%	43%	43%
②	自分の命を守ることが最優先なので、助けには行かない		12%	9%	10%	16%	13%	11%
③	自分の命を守ることが最優先だが、その時でないとわからない		45%	39%	48%	47%	43%	46%
9	事後	仲間が不審者から被害を受けました。あなたはどうしますか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
①	自分の命を守ることが最優先だが、仲間を助けに行く		33%	35%	36%	27%	35%	30%
②	自分の命を守ることが最優先なので、助けには行かない		22%	25%	18%	26%	26%	18%
③	自分の命を守ることが最優先だが、現実的に起こってみたいとわからない		44%	40%	47%	47%	38%	52%
<p><b>【考察】</b> 人の「命」を助けたいという人道的な観点から、生徒の心境を確かめる質問である。この結果から、訓練の様子を見て、自分の「命」さえ守ることができるか分からないことを、生徒は実感したものと考えることができる。しかし、これを持って生命尊重にかかる道徳性を判断するわけにはいかない。自分を含め誰の「命」も変わりはないという前提のもと、どちらかを判断しなければならない状況に追い込まれた時に、何を考え、どのように判断し行動するかは、非常に難しい問題である。いざという時の臨機応変な対応についてどのように指導するか、今後の課題である。</p>								

10	事後	先生の実演を真剣に見ることができましたか？	全体	1年	2年	3年	男子	女子
①	緊張感を持って真剣に見ることができた		80%	73%	78%	90%	80%	80%
②	とりあえず見ることができた		18%	23%	21%	9%	20%	16%
③	怖くて見ることがあまりできなかった		2%	4%	1%	1%	0%	4%
④	緊張感や、必要性があまり伝わらないので真剣に見ることができなかった		0%	0%	0%	0%	0%	0%
<p><b>【考察】</b> 今回の教員の取組の評価となる質問である。全教職員が一致団結し、協力して取り組んだ成果が結果に表れており、教員の思いが生徒に伝わったと判断できる。本訓練の成果と課題を整理して今後の指導に生かすとともに、傍観的であった生徒に対する指導の在り方や、恐怖感を与えてしまった生徒に対する配慮等について、検討したいと考える。</p>								

キ 生徒からの主な質問と回答

事後に、生徒から46の質問が寄せられた。ここでは、その内の7質問を列挙する。

質問 1	仲間が不審者から被害を受けた時は、助けるべきですか、助けないべきですか？（道徳討議）
確認	① 教員が回答を出すのではなく、道徳の授業における討議テーマとして取り扱う。 ② 流れ：「職員研修」→「道徳授業研究」→「全学級における道徳授業の実施」
質問 2	自分が特定指令者であったら、不審者侵入時はパニックになりそうなので、伝達できるかわからないのですか？（教員回答）
回答	① 最優先すべきことは、自己の生命維持である。ただし、最も早く危険地帯から脱出できる位置にいますので、可能な対応をお願いします。 ② 危険を冒してまでも役割を果たさなければならぬということではない。伝達できなくても、誰も責めることはできない。等
質問 3	不審者が複数いる場合はどうすればいいのですか。（浦上署回答）
回答	※ 出入口が閉鎖される可能性が濃厚である。 ① 教室の一角に全員避難する。（集まる。） ② 不審者に刺激を与える言動を慎み静かにする。 ③ 不審者に捕まった場合は、暴れたりせずに、不審者の言動等に注意しながら教員や警察等が来るのを待つ。等
質問 4	もし、みんなが混乱してしまった時は、どうしたらいいですか。（教員回答）
回答	① 逃げる方向を簡潔に教える。 例：「体育館へ」・「グラウンドへ」等 ② 防衛する方法を簡潔に教える。 例：「椅子を持って」・「机を投げろ」等 ③ 不安にさせない声を掛ける。 例：「大丈夫」・「心配ない」等 ④ 手を引いて共に避難する。手の引き方は、水泳のボディシステムと同様とする。等
質問 5	仲間を助けることを、自分の判断で行ってもいいですか？（教員回答）
回答	① まずは、自己の生命維持ができるかどうかを状況判断する。 ② 助けることができる状況であるかを冷静に判断する。（不審者の動き・協力者の数等） ③ 仲間の命と同等に自分の命もかけがえのないものであることを忘れない。等

質問 6	不審者が拳銃を持っている時は、どうすればいいですか？（浦上署回答）
回答	※ 拳銃が本物か否かによって対応は異なるが、実際には、その判断は困難である。 ① 絶対に不審者を刺激しない。 ② 絶対に抵抗せずに、大人しくする。 ③ 教員や警察等が来るのを待つ。等
質問 7	先生は、不審者が侵入した時に本当に対処できるんですか？（教員回答）
確認	※ 生徒が教員に対して安心や信頼を求めた質問であることから、不安を持たせない回答が求められる。 （例） 教員は、不審者に対応するための方法や知識を習得しているので、高い確率で対処できると思う。もちろん、厳しい状況になることもあるだろうが、今回の訓練で見もらったように、先生たちは一致団結し、必死になって生徒を守る。これからも、こうした危機対策について一緒に考えていこう。

※ 質問への対応と考察

生徒からの質問には、教職員だけでは的確な判断が難しい内容も多く含まれていたため、浦上警察署にも協力を求め、ご教示いただいた。

「不審者が複数いた場合の対応法」や「不審者に捕まった時の対応法」等の質問は、生徒が訓練の意図やねらいを追求し、危機回避に対する関心や意欲を高めた結果によるものととらえることができる。

生徒の自己生命維持能力や危機回避能力のより一層の向上を図るため、今回受けた質問を生かして、さらに異なった場面や状況の想定による訓練を計画することも検討してみたいと考える。



〔訓練②・③〕 暴れる不審者に対応する担任の様子

## 4 実践の成果

### (1) 生徒に対する成果

生徒の訓練成果は、アンケート結果の考察により確認することができる。訓練後の生徒の感想や意見・質問では、「実際に起こってみないと分からない」という反応がある一方、こうした訓練の継続実施を求める声も多く、危機回避に対する関心や意欲を確実に高めることができたと考えられる。

主な成果は、次のとおりである。

- ア 教職員の緊迫感のある行動や雰囲気をとおし、不審者侵入避難訓練の特殊性や重要性を感じさせることができた。
- イ 不審者への対応が、いかに難しいものかを感じ得させることができた。
- ウ 特定指令者や学級委員等の役割内容を理解させるとともに、実際の行動を通して、その重要性等を認識させることができた。
- エ 自己の生命維持を最優先とする状況判断や危機回避能力について、基本的な考え方や対処法を習得させることができた。
- オ 仲間が不審者から被害を受ける状況を実際に見ることで、命の重さを真剣に受け止めさせることができた。



生徒と教員による最終打ち合わせの様子

### (2) 教員に対する成果

本訓練を通して、生命維持や安全誘導の難しさ、並びに危機回避能力や的確な判断力等を育成することの重要性を再認識することができた。

また、安全教育面で早急に解決すべき課題や危機管理上の再検討事項など、実際に体験しなければ気付かない内容等も把握することができた。

さらに、この訓練を生かして、校外での不審者遭遇に関する指導の徹底を図るとともに、登下校時の危険箇所についても改めて調査を実施し、生徒・保護者間での確認を図るなど、安全対策全般の充実・改善につなげることができた。

次に本訓練後の教員の率直な感想を列挙する。

ア 不審者対応係として、さすまたを持って応援に駆けつけたが、負傷した生徒を見て、「先にこの子を助けるべきではないか？」という葛藤があった。

イ 不審者役を務めたが、教室の侵入口に近い生徒は危害を受けやすいと思った。

ウ 不審者側へ逃げた生徒もおり、いざという時に生徒たちがいかに混乱するものかよく分かった。

エ 生徒だけの時の方が、被害が大きくなるのではないかという恐怖心を抱いた。

## 5 課題等

最後に、今後の課題として取り組んでいきたい四つの柱を列挙し、本稿のまとめとしたい。

### (1) 危機管理（回避）マニュアルの再検討

今回の訓練を通して、学校として想定しておくべき様々な危機的状況が明らかになった。それぞれの状況に応じた組織的対応方法を検討し、その徹底を図る必要がある。

### (2) 避難訓練の全体計画の再検討

今回の実践により、事前・事後指導を含めて避難訓練の新たなノウハウを得ることができた。これを全体計画の充実・改善に生かすことが大切である。

### (3) 関係機関との一層の連携

本訓練の実施に当たっては、警察署や教育委員会関係課の指導助言が本当に役に立った。日頃の危機管理を含め、今後も密に連携していきたい。

### (4) 命の教育の充実

避難訓練と命の教育が密接に関わっていることを再確認することができた。今後も様々な機会をとおして、生徒たちに命の尊さをしっかりと教えていくことが大切である。（道徳の時間との関連づけ）



〔訓練②〕不審者確保時の状況